


## 7 別葉の作り方と活用について（大仁中学校）

学びや体験活動が道徳の視点から具体的な教育実践に生きて働く計画を目指した。道徳の時間が学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の要であり、道徳の時間以外での活動・各教科等との関連をもたせた指導が必要となる。そこで各教科等の特質を踏まえ、道徳の指導と関連する部分を明らかにした。新しいことを加えるのではなく、今まで行ってきたことに対してその教材に含まれる「道徳的価値」を教師側が意識して（思いを込めて）授業を行っている。

具体的な例として本年度は、1年音楽の「赤とんぼ」では『自然愛護』、2年国語の「走れメロス」では『友情信頼』、3年保健体育の「ダンス」では『個性の伸長』など、道徳的価値を『教材の本質』と結びつけた授業を実践した。教材を道徳的価値と結び付けることが難しい場合には、難問を解こうとする気持ちを『強い意志』として意識した数学の授業、実験道具の準備片付けをする際にみんなで助け合って『協力』する理科の授業など、『学習活動』を道徳的価値に結びつけた授業を行っている。これらを「別葉」として一覧表にし、学校の教育活動全体を通して道徳教育を進めていく上で必要なものとして、全教職員が作成し意識して活用している。（①）大仁中学校区連携カリキュラムとして共通重点項目に特化した別葉を作成し、9か年の学びを示して発達段階に応じた指導を心掛けている。（本紀要 P9～12）

教科の学習指導案には「道徳教育との関連」として、扱う教材にどのような道徳的価値が含まれるのかを記載し、授業者が思いをもって取り組んでいる。（②）

### ①（大仁中学校2年別葉より）※別葉内に明記されている(1)~(22)の数字は改正指導要領「内容小目の指導の観点」

国語	社会	数学	理科	英語	
・言葉の共有(4) ・ケナリも花、サクラも花(18)	・二度の世界大戦と日本(5)(10)(11)(19)	・式の計算(2)(5)(19)		・Unit1 Pop Culture, Then	<b>・二度の世界大戦と日本(5)(10)(11)(19)</b>  例) 1年社会 二度の世界大戦と日本の題材では、 ・真理の探究、創造 ・友情、信頼 ・相互理解、寛容 ・生命の尊さを意識しながら授業を行っていく。
・water(8)	・現代の日本と世界(5)(17)(18)		・エネルギーの保存と利用の効率(18)	・Presentation1 日本文化紹介(17)	
・握手(6)(19) ・輝ける闇(19)	・現代社会と私達の生活(7)(9)(14)	・平方根(5)(19)	・生物の成長とふえ方(19)	・Unit3 Fair Trade Event(18)	

### ②教科の学習指導案に記載している「道徳との関連」について

（2年理科 単元名 動物の生活と生物の進化～消化と吸収～）

教科の本質から

#### (1) 本時の目標

吐いた時の経験から、食べたものが口で小さくなり唾液と混ざり胃液が加わり溶けた状態になることを知っている生徒が、不要物を排泄する大便の状態との違いに疑問をもち、人工的に作った胃の状態にある食べ物の色やにおいを観察・比較することにより、唾液や胃液以外の消化液が働き、分子が小さくなり吸収につながっていくことを実験を通してつかんでいく。

#### (2) 研修テーマ 道徳教育との関連（教材の本質から）

この実験は、生きるための基本的で重要な仕組みを扱う。自分たちの体のつくりを理解するとともに、食べ物への感謝や生命の尊重などの心を育てていく。（生命の尊さ）

（3年英語科 単元名 自分が将来してみたいことについて書こう）

学習活動から

#### (1) 本時の目標

自分の「したいこと」についてもっと詳しく説明したいと思う生徒が、ALTの話す文を手掛かりに、「好きなこと」や「するのが好きなこと」などの、「したいこと」を補足できるような表現を考えることによって、自分のしたいことについて複数の文を使ったまとまりのある文を書くことができるようになる。

#### (2) 研修テーマ 道徳教育との関連（学習活動から）

本時では、お互いに自分のしたいことやどんなことをするのが好きかなど、それぞれの思いについて書いた文を読み合う活動が設定されている。相手の思いを否定したり、ばかにしたりすることなく、相手の文章の内容に興味をもって読むことで、個人の違いを尊重しようとする態度を育てていく。（相互理解・寛容）